

メダルラッシュに日本中が沸き立った昨夏のロンドン五輪。当時、ウィーン特派員だった私は、男子体操で火花を散らす日本の内村航平選手(24)と、ドイツのマルセル・グエン選手(25)に目が釘付けになった。正確には、2人のわきの下に、個人総合で金メダルを決めた内村選手がガッツポーズした瞬間、あふれるモジヤモジヤ。かたや、銀メダルのグエン選手は大理石のようにツルツル。

東北人の私は毛深い。胸毛はないけど、わきやすねはかなり濃い。思春期はコンプレックスだったが、今は「男らしさ」と誇りに思う。なのに、あんなツルツルを見せつけられたら、心揺らぐ。なぜ、そんなに毛嫌いの？

「なぜ」を訪ねて?

デジタル版に「取材余話」

むだ毛処理 欧州男子の常識



2人のわきの下の話題は日本のネット上でも盛り上がりつつあった。「内村選手のわき毛を抜いてお守りにしたい」「小人になって住みたい」——。熱狂的な内村派の書き込みに対し、「あのツルツルを見習って」というグエン派も多かった。こんなデータをみつけた。電機大手パナソニックが3月に発表した調査によると、ドイツ人男性の62%がわき毛を、38%が胸毛を処理。日本では、それぞれ10%、15%にとどまった。そうだ。ウィーンで通ったトレーニングジムで、ツルツル男子を見たことがある。髪の毛とひげ以外すべて、

ロンドン五輪で銀メダルを獲得したマルセル・グエン選手。わきの下はツルツルだ＝ベルリン郊外「手も脚も」

で、だ。「特殊な趣味かな」と思っていたが……。4月上旬、ベルリン郊外で合宿中のグエン選手を訪ね、単刀直入にわきの下のことを聞いてみた。「わきだけじゃなく手も脚も全部そってるよ。欧州では常識じゃないの」。今の若者らしい軽いのりのグエン選手に、こちらが思わず恥ずかしくなる。えっ、じゃあ、内村選手のわき毛は？

「五輪の時、チーム内でも話題になっていましたよ。あの若者らしい軽いのりのグエン選手に、こちらが思わず恥ずかしくなる。えっ、じゃあ、内村選手のわき毛は？」

「おー、日本はそらないんだな」って。

やはり、だが、彼は一流のアスリートだ。水の抵抗

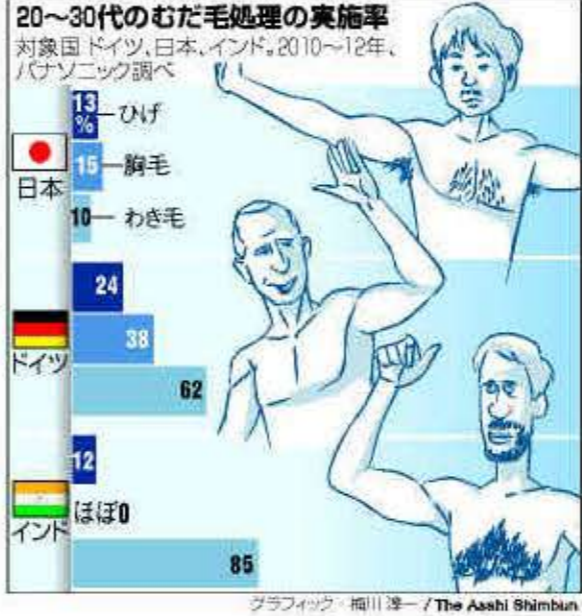
ロンドン五輪の体操・男子種目別でゆかの演技をする内村航平選手＝2012年8月、森井英二郎撮影



からだからし

熊本のおさまが元気になるよ。う、お坊さんが考えた「からしレンコン」。からしで食欲モリモリに、レンコンは体を元気にしてくれる力があるんだ。

1174



魅惑のツルツルスベ

内村、ウィーンで完敗



人類とむだ毛の絡み合いの歴史は古い。すでに紀元前3千～4千年ごろには、地中海周辺などで脱毛の習慣があったといわれる。当時は、石灰やでんぷんをペースト状にした脱毛剤、毛を挟んで抜くひもなどが用いられたという。古代エジプトの女王クレオパトラも脱毛の愛好者だったようだ。中世にも、脱毛した男女の絵画や彫刻が見つかっている。

その流れは、現代にも脈々と受け継がれる。独ライプチヒ大学の研究チームが2009年、約2500人に調査したところ、18～24歳の男性の約35%が体毛を定期的に手入れすると答えた。そのうち、わきと局部がいずれも約75%。理由は「衛生的」(66・5%)、「美し

ウィーンの若い女性は圧倒的にツルツル支持だった＝ウィーン、玉川透撮影

い体(49・5%)、「よりよい性行為(25・5%)」をあげた。男性の脱毛を女性はどう見ているのか。ウィーンを中心街で、女性20人(15～83歳)に内村、グエン両選手のガッツポーズ写真を見せて、「違和感がないのはどっち?」と聞いてみた。

結果は、20対0でグエン派の圧勝。女性たちは「清潔感がある」「見た目がきれい」と口をそろえた。でも、局部の毛は年代で違いもあった。10～20代のほとんどが「彼氏にはそってほしい」と答えたが、30代以上は「そこまで求めない」「下の毛はセクシー」とおむね寛容だった。

こうなったら、この目で確かめよう。ハプスブルク家の貴族やモーツァルトも愛用したウィーン郊外の温泉保養地、バーデンを訪れた。男女共用のサウナは皆、すっぱんぼん。

あれれ? あそここの毛が濃くないぞ。恐る恐る1人に声をかけた。「プロンドだから薄く見えるだけ。でも見た限り、同世代の半分はそっていると思う。俺もそろろかな」と、常連のペーターさん(58)は笑った。

東北男も挑戦

商機を業界も見逃さない。ドイツの「Wax in the City」は8年前、ベルリンに女性専門の脱毛店として開業したが、最初の客は男性だった。今やオーストリアやスイス、アイルランドにも計18店舗を展開。どの店も男性客が15～20%を占める。

クリスティアン・マルグライター社長(49)によると、男性の脱毛熱の火付け役は、00年代に始まった「メトロセクシュアル」のブーム。都会に住み、流行に敏感で、自分の女性的な部分を受け入れる男性のことで、代表格は英サッカ一のベッカム選手だ。

欧米ポルノも影響を与えたとされる。出演する俳優の多くは男女とも局部に毛がない。ヘアヌードなど毛が売り物になる日本とは大違いだ。ライプチヒ大学の調査に携わった精神科医ディアク・ホフマイスター氏(40)は、こう指摘する。「根底には、自然をコントロールしたい人間の欲求と、仲間と同じじゃないと安心できない人間の性がある」

じゃあ、日本男子にもツルツル時代が来るのか? 日本スキン・エステティック協

むだ毛の森に迷い込んだ玉川透(前ウィーン支局長)



会(東京、会員約2千人)によると、00年ごろから、むだ毛処理に熱心な日本人男性は急増しているという。だが、「全身ツルツルはまだ極めて少数派ではないか」と、手塚圭子理事は語る。

旅を終えた私は決意していた。時代の先端を見つめるのが記者だ。いつそののか、今でしょ。妻の冷やかな視線を感じつつ、最新のボディインシェーパーとカミソリを買い、浴室で悪戦苦闘すること1時間余。腕、わき、すね、そして……。 「あの毛がないなんて、男じゃない」と妻は食い下がったが、滑り出した刃はもう止まらない。数十年前に姿を現したツルツルに思わず見とれた。でも服に擦れてヒリヒリ。数日でチクチクし始めた。「いらい」。何か居心地が悪い、という意味の故郷の言葉が口をついて出た。

特派員メモ

支局スタッフの採用で、思わぬ苦戦を強いられた。地元紙に求人広告を出したら、連日50件ものメールが届き始めた。ドバイの人口の1割しかないアラブ首長国連邦の人たちの勤め先は政府や政府系企業ばかり。だから、募集は「滑らかなアラビア語と英語が必須」と明記したにもかかわらず、応募者はインドとパキスタン、フィリピン出身者がほとんどで、アラビア語を話す人は2割もない。「新聞記者の助手を」と求めているのに、「電気技師に」「営業職で」といった応募が後を絶たず、ついには歯科助手希望の人まで。履歴書には「ピザ切れ近況。即雇用を」と切々と訴える人や、「私の経歴は忘れてください」と謎めいた言葉を添える人もいた。募集要領を読まないのか、読んでお気にしないのか。答えの一つは、メール末尾に時折見かける注釈にあった。「履歴書を受信しなくては返信を」。調べると、「千社に即送付」とうたった履歴書の送付代行業が出てきた。うんざりしていると、「貴社にびつたりの人を見つけます」と甘くさやく人材紹介会社の営業メール。ドバイの就職戦線に翻弄されている。(村山祐介)

◆ドバイ

求職戦線異状あり

支局スタッフの採用で、思わぬ苦戦を強いられた。地元紙に求人広告を出したら、連日50件ものメールが届き始めた。ドバイの人口の1割しかないアラブ首長国連邦の人たちの勤め先は政府や政府系企業ばかり。だから、募集は「滑らかなアラビア語と英語が必須」と明記したにもかかわらず、応募者はインドとパキスタン、フィリピン出身者がほとんどで、アラビア語を話す人は2割もない。「新聞記者の助手を」と求めているのに、「電気技師に」「営業職で」といった応募が後を絶たず、ついには歯科助手希望の人まで。履歴書には「ピザ切れ近況。即雇用を」と切々と訴える人や、「私の経歴は忘れてください」と謎めいた言葉を添える人もいた。募集要領を読まないのか、読んでお気にしないのか。答えの一つは、メール末尾に時折見かける注釈にあった。「履歴書を受信しなくては返信を」。調べると、「千社に即送付」とうたった履歴書の送付代行業が出てきた。うんざりしていると、「貴社にびつたりの人を見つけます」と甘くさやく人材紹介会社の営業メール。ドバイの就職戦線に翻弄されている。(村山祐介)